

2024(令和6)年1月26日

# HPVワクチン地域ブロック拠点病院

## 事業報告

愛知医科大学 疼痛医学講座

愛知医科大学病院 疼痛緩和外科・いたみセンター

牛田享宏

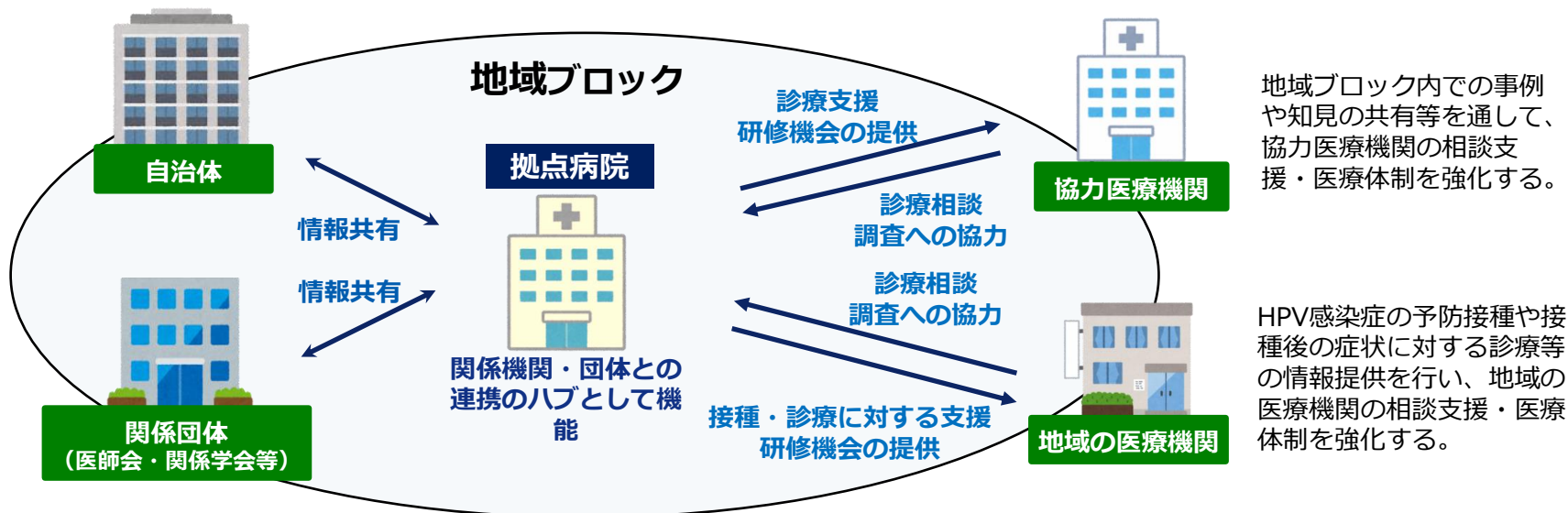
# HPV感染症の予防接種に関する相談支援・医療体制強化のための地域ブロック拠点病院整備事業（概要）

目的：ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症の予防接種を進めるにあたって、協力医療機関の中から、地域ブロック別に拠点病院を設け、HPV感染症の予防接種に関する相談支援・医療体制の強化を図る。

## 事業内容

日本全国を10ブロックに分け、地域ブロック別に拠点病院（1～2医療機関）を選定する。拠点病院は、医療機関・自治体・関係団体等との連携のハブとして、下記のような役割を担う。

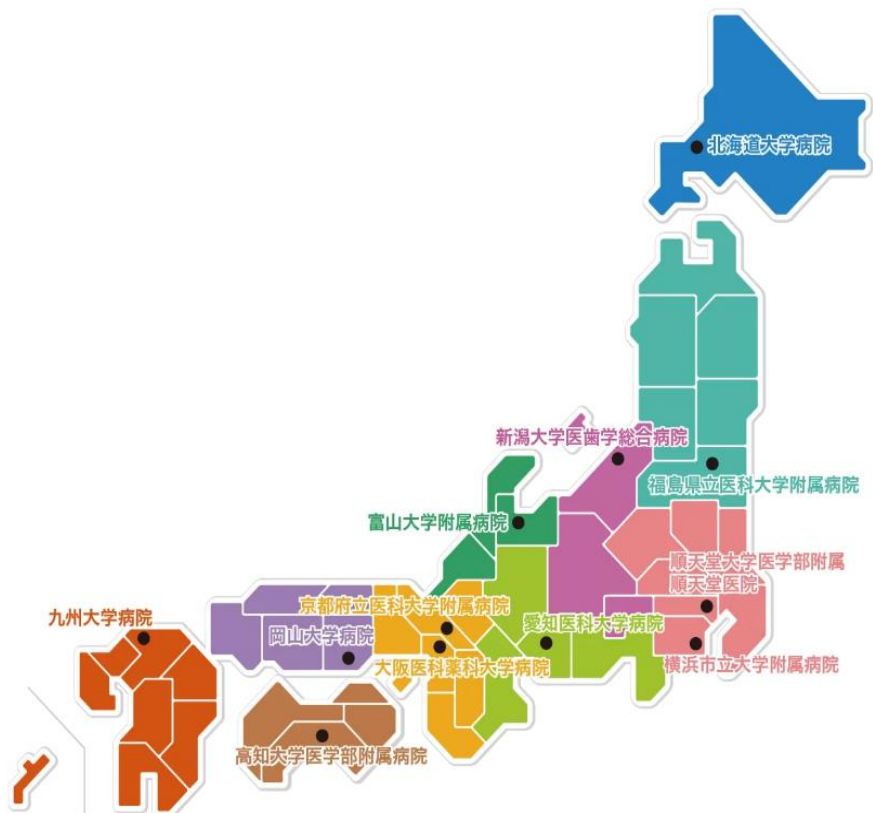
- 協力医療機関や地域の医療機関との連携を構築し、研修会等の実施を通して、協力医療機関の診療支援・地域の医療機関に対する情報提供を行い、よりよい診療体制の構築に寄与する。
- 都道府県・市町村・医師会・学校関係者・予防接種センター等との連携を構築し、情報共有を行う。



注）協力医療機関とは、ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関を指す。

# HPV感染症の予防接種に関する相談支援・医療体制強化のための 地域ブロック拠点病院整備事業（概要）

全国を10ブロックに分け、計12病院を地域ブロック拠点病院に選定。



全国協力病院一覧

ブロック	実施機関
北海道	北海道大学病院
東北	福島県立医科大学附属病院
関東	順天堂大学医学部附属順天堂病院
関東	横浜市立大学附属市民総合医療センター
甲信越	新潟大学医歯学総合病院
北陸	富山大学附属病院
東海	愛知医科大学病院
近畿	京都府立医科大学附属病院
近畿	大阪医科薬科大学病院
中国	岡山大学病院
四国	高知大学医学部附属病院
九州・沖縄	九州大学病院

## 活動内容

---

拠点病院は、医療機関・自治体・関係団体等との連携のハブとなり、下記の活動を行っている。

- 協力医療機関、都道府県・市町村担当者を交えた定期連絡会の実施
- 協力医療機関・地域の医療機関を対象とした研修会の実施
- 教育関係者との連携
- 情報提供資材の作成
- 厚生労働科学研究班との連携
- そのほか

## 定期連絡会・研修会の実施

- ブロック拠点病院と協力医療機関で、顔の見える関係性を作ることによりよい連携体制をつくる
- 協力医療機関・地域のクリニックに接種前後の対応ポイントおよび副反応出現時の対応や流れを共有する

### <定期連絡会>

- 「接種後症状による受診状況」、「接種数の状況」の共有
- 医療機関・自治体担当者等との連携の確認
- 「症例経過」を共有し、診療に役立てていく

### <研修会>

- 接種前からの対応、接種留意点と接種後副反応の考え方
- 国内外におけるHPVワクチンと子宮頸がんの現況
- ブロック拠点病院を中心にZoomで年3～4回行うほか、  
学会（小児精神神経学会、日本疼痛学会、日本運動器疼痛学会）の研修会  
各県の自治体主催・医師会主催の研修会に参画

# 教育関係者との連携

- 接種対象者の多くが、学校教育を受けている世代であるため、教育現場との連携が重要である。
- 厚労省を通じて、文科省から本事業への協力依頼に関する事務連絡を教育委員会宛に発出するとともに、学校関係者向けの情報提供資料を作成。

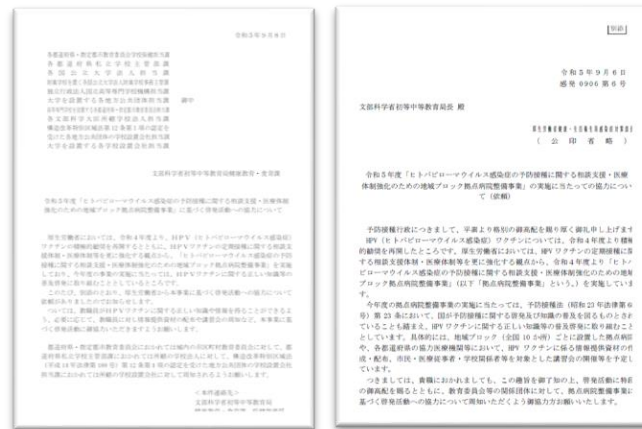
## <学校関係者との連携>

- 市の教育委員担当訪問
- 県教育委員会保健体育課訪問し、研修会や資料配布について相談
- 養護教諭の会および高校のがんの授業で講義
- 文科省・厚労省の連名文書発出

## リーフレットの広域配布

## <情報提供リーフレット概要>

- 養護教員をターゲットとするが他の教員や父兄がみても違和感なく使えるもの



### 1 HPVってどんなウイルス?

HPV(ヒトパピローウイルス)はほとんどもありふれたウイルスで、一度でも性的接触があれば男女を問わず誰でも感染する可能性があります。ウイルスの型は200種類以上が知られています。子宮頸がんをはじめ、中国がん、膣がん、肛門がんなどのがん、また、尖圭コンジローマ等の病気、HPVがんの感染が原因とされています。特に、近年子宮頸がんになってしまっている女性が増えています。

**HPVの感染経路**  
HPVは性行為によって、男子や一時的に感染することがあります。

**実形コンジローマってどんな病気?**  
HPVの感染により、性伝染病に引き起こされる性病です。感染後、数週間から2〜3か月を経て、イボ状、瘰癧(とががけ)の小瘡腫が多発します。

### 2 HPVワクチンって?

**HPVワクチン定期接種 公費負担!**

①小学校6年生から高校1年生相当の女子  
②平成9年度から平成19年度生まれの女子  
(令和7年3月末まで終了)

**接種スケジュール**

1回接種 2回接種 3回接種

**ワクチンの種類**

2価ワクチン(サーバリックス)  
4価ワクチン(オリーブシル)  
9価ワクチン(シルガード)  
のいずれか

**接種スケジュール**

1回接種 2回接種 3回接種

**01 ワクチンの効果は?**

現在定期接種(公費負担)のHPVワクチンを接種すると、子宮頸がんの原因ウイルスのうち、2価:4価ワクチンは50~70%、9価ワクチンは80~90%の感染を予防することができます。性的接触で感染するため、性交渉前には接種することが最も効果的です。また性交渉後であってもワクチンの効果は認められています。

**02 注射は痛いの?**

筋肉注射なので、直接は、注射した部分の痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こることがあり、まれに、重いアレルギー症状や神経系の症状が起こることがあります。HPVワクチンだけでなく、どんな予防接種にも副反応リスクはあります。注射への恐怖や不安が少しでもある人は、無理をしないでお医者さんや保健師、周りの大人に相談しましょう。

**03 接種に向けてどうしたらいいの?**

HPVワクチンは予防接種法に基づき定期接種で、対象者は公費負担で接種することができます。16歳未満の人は公費負担の適用が受けず、必ず保護者の同意が必要となります。接種を受けることが決まったら、予約が必要ですので、接種場所などお住まいの市町村のホームページ等で確認しましょう。



# 情報提供・連携構築

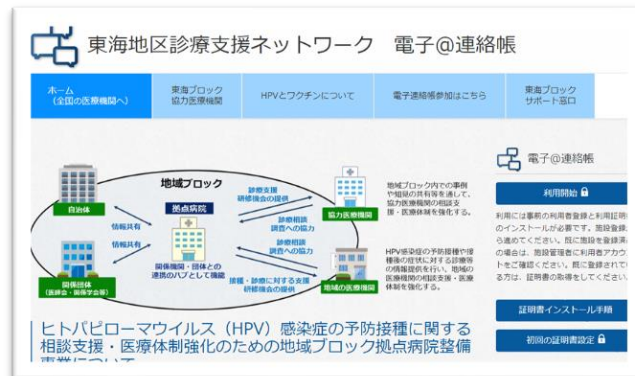
- 接種対象者および保護者等にもわかりやすい一般向け情報提供
- 接種対象者の多くをかかえる教育現場への情報提供
- 接種にあたる医療者サイドのサポート連携

## <情報提供>

- 患者/家族向け・医療者向けHPの構築  
全国版・ブロック地域ごとのHP
- 学生・被接種者向けビデオ作成
- 教育関係者向けリーフレット作成
- 診療マニュアル作成

## <連携・サポート体制の構築>

- HPVワクチン接種・接種後症状にかかわる診療科間の連携
- 医療用SNSを活用した拠点病院と協力医療機関・クリニックとの連携
- 県市医師会との連携



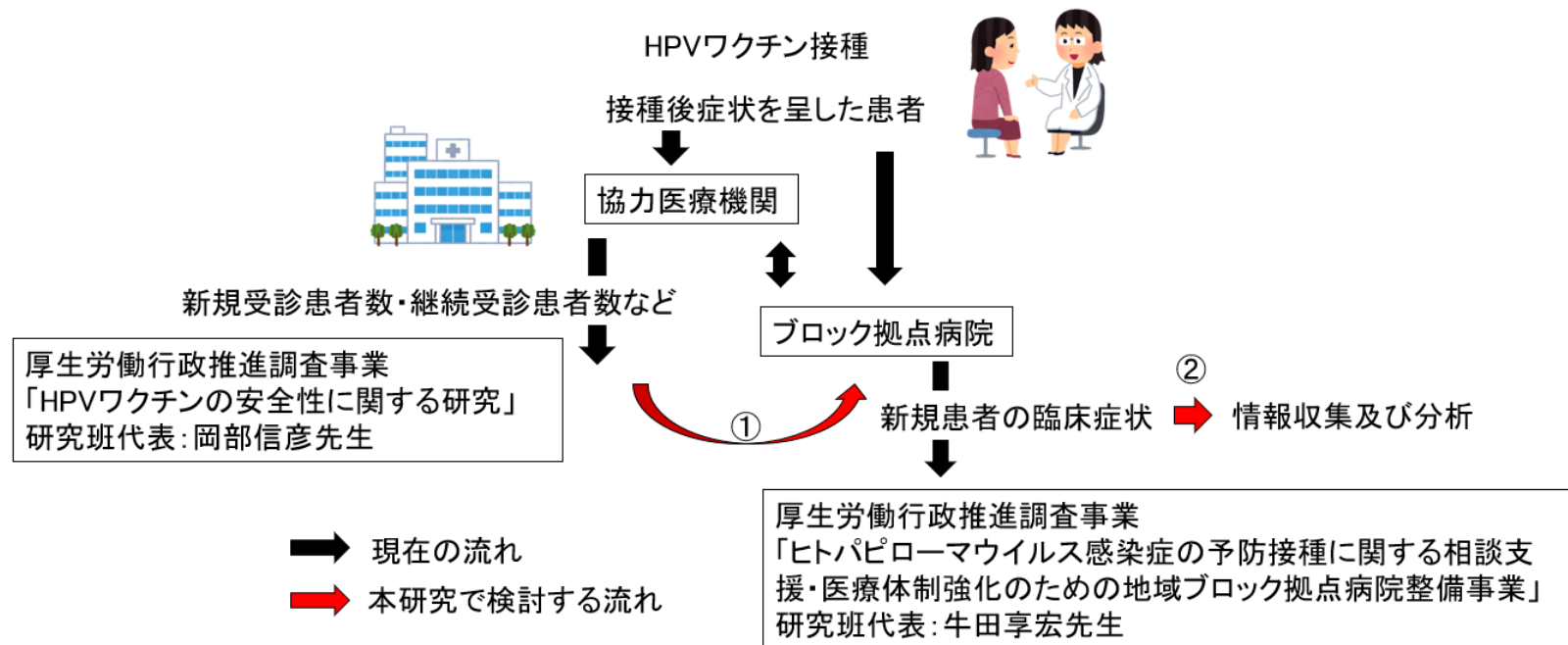
## 研究班との連携

令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）

- HPVワクチンなどのワクチン接種後に生じる種々の症状についての調査とその対応方法に関する研究（研究代表者：西原真理）
- HPVワクチンの安全性に関する研究（研究代表者：岡部信彦）

### <西原班との連携>

HPVワクチンなどのワクチン接種後に生じる種々の症状についての調査とその対応方法に関する研究  
概要② ～他の研究班との関連



- ① 「HPVワクチンの安全性に関する研究」で行われている患者調査  
→ 協力医療機関で発生した患者についての情報を共有
- ② ブロック拠点病院を受診した患者についてその臨床症状を調査・分析する



## その他

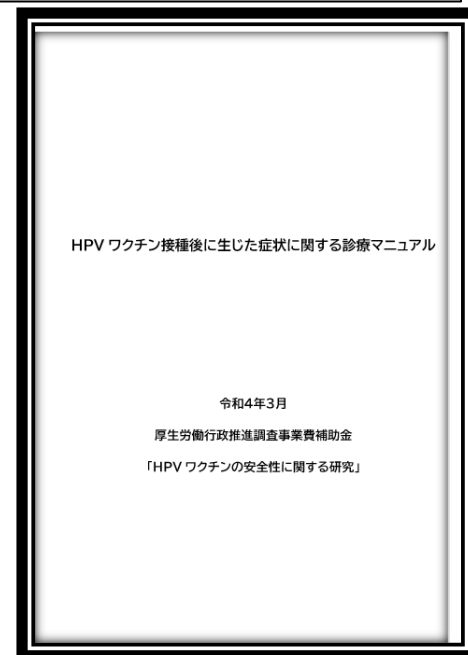
- HPVワクチン診療マニュアル作成の支援
- 協力医療機関向け研修会（厚生労働省主催）の実施支援

### < HPVワクチン診療マニュアル >

- 1) ワクチン接種後の多様な症状：機能性身体症状、ISRRや関連病態の理解
- 2) HPVワクチン接種からフォローアップまでの流れ
  - First タッチ医（接種医・かかりつけ医）の基本的な役割と診療姿勢
  - 予診票取得時の確認事項
  - ワクチン接種時の手技において注意すべきポイント
  - 多様な症状の出現時に対応する際の医師（First タッチ医など）の診療姿勢と役割、診断の考え方と伝え方、治療のポイント
- 3) HPVワクチンのエビデンス

### < 協力医療機関向け研修会 >

- 子宮頸がんの現状・治療と検診について
- 接種の現状およびキャッチアップも含めた今後の展望について
- 接種後症状に対するファーストタッチ医の役割
- 接種に係る診療の具体例について
- 接種に係る診療における運動療法の活用について
- 拠点病院、協力医療機関の役割



## まとめ

- 事業開始後、HPVワクチン接種にかかわる診療科間の連携が構築できた。
- 拠点病院が中心となり協力医療機関・自治体との顔の見える関係が構築され、意見交換や情報共有が容易になった。

**症例対応での連携や事例をともに学ぶことで相談支援・**

**医療体制が強化された**

- 自治体との連携強化と厚労省・文科省の後押しにより、教育現場との連携が開始され、一部研修なども出来るようになった。

**今後は定期的な会の運営などで医療体制の強化維持を進める**

**啓発活動を並行して行い、接種希望者がきちんと接種できる状況を構築する**

本事業の活動にご尽力いただいている先生方（敬称略）

宮城悦子、渡利英道、柳生一自、矢吹省司、井関雅子、北原雅樹、木村慎二、川口善治、天谷文昌、鈴木富雄、小川千加子、鉄永倫子、山岸由佳、山浦健